わが家の防災メモ

いざという時の連絡先

豊郷町役場	0749-35-8111（代表）
事件・事故	110
消防・救急	119

わが家の避難場所と連絡先

洪水時の避難場所	
地震時の避難場所	
非常持出品の置き場所	

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

災害用伝言ダイヤル171－安否確認方法－

災害伝言ダイヤル 171 は、大規模な災害が発生した時の被災地と被災地以外の地域を結ぶ「声の伝言板」です。サービス開始はテレビ・ラジオ等で通知されます。使用方法を知っておきましょう。

171 にダイヤル
案内が流れます
伝える場合 1
聞く場合 2
録音の案内が流れます
再生の案内が流れます
0749－被災した家の電話番号

この冊子のお問い合わせは
豊郷町役場
TEL: 0749-35-8111

令和3年3月発行

保存版

豊郷町 総合防災マップ

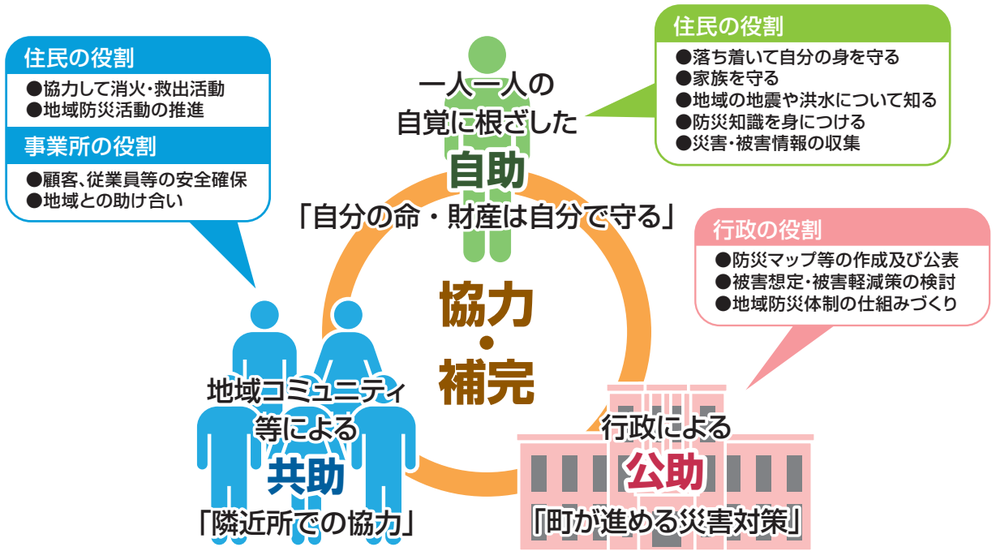
いざという時に
備えて安心。
このマップを身近な
ところにおいて、
活用してください。

目次

防災・減災の基本 1
はじめに 2
　このマップに記載されている災害 2
　このマップについて 2
洪水編 3
　外水氾濫と内水氾濫 3
　大雨によって想定される被害 3
　雨の降り方と強さ 3
　河川の水位情報 4
　●宇曽川、犬上川の水位 4
　●雨の降り方と河川の水位 4
　避難行動の種類 5
　早期の立退き避難が必要な区域 5
　避難をする時の心得を学びましょう 6
　マイ・タイムラインを作りましょう 7
　いろいろな情報収集の方法 9
　マップの見方 10
　凡例 10
　宇曽川が氾濫したら 11
　犬上川が氾濫したら 13
　地先の安全度マップ 15
　宇曽川と犬上川が同時に氾濫したら 17
地震編 19
　地震発生のしくみ 19
　マグニチュードと震度 19
　震度と想定される被害 20
　地震による被害 20
　地震発生時の行動 21
　鈴鹿西縁断層帯（震度分布） 23
　鈴鹿西縁断層帯（液状化危険度分布） 23
　南海トラフ巨大地震（震度分布） 24
　南海トラフ巨大地震（液状化危険度分布） 24
　地震時の避難場所 25
原子力災害編 26
　町が想定する原子力災害とは 26
　原子力災害が起きた時は 26
　屋内退避の指示が出た時は 26
家屋の災害対策 27
　地震から身を守るためには 27
　■家の耐震性を確認し、耐震化をしましょう 27
　■家具の転倒防止・家具の配置に注意しましょう 27
　■二次災害にも備えましょう 27
　風水害から身を守るためには 28
災害に備える 29
　地域で助け合いましょう 29
　自主防災組織へ参加しましょう 29
　家族や地域で防災に取り組みましょう 30
わが家の防災メモ 裏表紙

防災・減災の基本

災害による被害を少しでも軽減するために、行政が行う防災対策である「公助」とともに、自分の命は自分で守る「自助」、地域の安全は地域で守る「共助」が防災・減災の基本になります。



はじめに

豊郷町総合防災マップは、住民の皆さんが地域の防災を考えるために役立つ情報をまとめたものです。洪水や地震等の自然災害は、いつ発生してもおかしくはありません。想定される災害を知り、いざという時、あわてず行動できるように、この冊子を使って家族や地域で話し合いましょう。

このマップに記載されている災害

このマップは、豊郷町で想定される災害（洪水、地震、原子力災害）に関する情報についてまとめたものです。

洪水編

地震編

災害が発生した時は

●まずは身の安全確保! 自分の身の安全を確保し、正確な情報を集めましょう。

●迅速で安全な避難! 日頃から非常持出品を準備し、安全を確保しながら避難しましょう。

●避難したら戻らない! 安全が確認されるまで自宅等に戻るのは避けましょう。

※詳しくは、このマップの各災害編をご確認ください。

このマップについて

このマップは住民の皆さんが町で想定される災害を知り、対策を考え、自助・共助でできることから取り組むことにより、災害時に少しでも被害を軽減することを目的としています。家族でこのマップを見ながら防災会議を開き、身の周りで起こりうる災害や避難について考えてみましょう。

1 家族で防災会議を開く

2 災害に備えた準備を行う

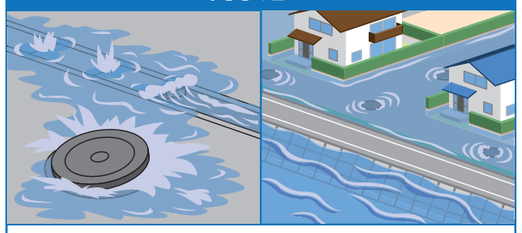
3 地域みんなで防災に取り組む

外水氾濫と内水氾濫

外水氾濫

大雨によって、河川の水量が増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊する等により水が流れ出す現象

内水氾濫



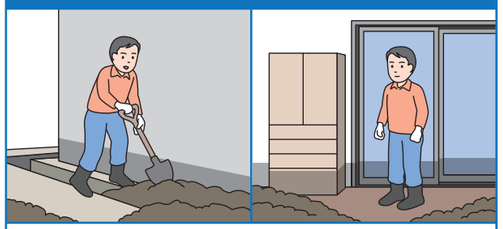
大雨によって、下水道や水路からの排水ができなくなり、水があふれだす現象

大雨によって想定される被害

道路の冠水

エンジンが停止したり、ドアが開かない等、車内から出られないことがあります。

床下浸水・床上浸水



流れこんでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊

河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。

雨の降り方と強さ

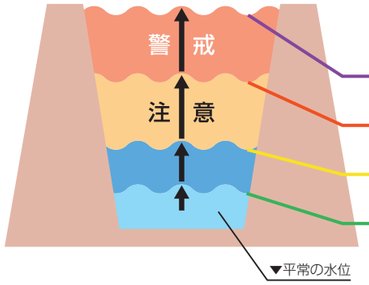
集中豪雨は、短期間のうちに狭い地域に集中して降る雨のことで、梅雨の終わり頃によく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、発生の予測は難しく、急激に状況が変わるため、少しでも異常や危険を感じたら、すぐに避難するようにしましょう。

1時間雨量	10～20mm やや強い雨	20～30mm 強い雨	30～50mm 激しい雨	50～80mm 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
状況	長く続く時は注意が必要	側溝や下水道等があふれる	道路が川のようになる	マンホールから水が噴出する	大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

河川の水位情報

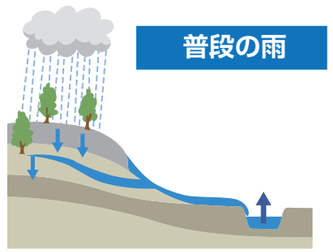
河川管理者である県は、氾濫のおそれのある河川に水位観測所を設け、いざという時のために、水防活動や避難の目安となる水位を定めています。河川の水位情報は、インターネットを通じて公表されています。大雨で増水が予想される場合などに確認してみましょう。（→P9 参照）

●宇曽川、犬上川の水位



河川名		宇曽川	犬上川
観測所名		上枝	千鳥橋（彦根市）
氾濫危険水位	氾濫のおそれがある水位	3.6m	2.3m
避難判断水位	避難情報発表の目安となる水位	2.9m	2.0m
氾濫注意水位	河川の氾濫の発生を注意する水位	2.2m	1.7m
水防団待機水位	水防団が待機する目安となる水位	1.4m	0.8m

●雨の降り方と河川の水位



水位はゆるやかに上昇

普段の雨では、地表に降った雨は地中に浸透し、河川の水位はゆるやかに上昇します。
長期にわたって雨が降り続けると、洪水の危険性が高まりますので、注意が必要です。

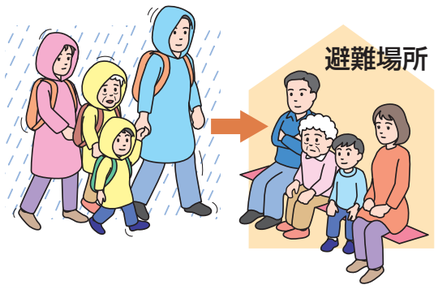
水位は急に上昇

豪雨時は、地中に浸透する雨の量よりも地表面を流れる方が多いため、河川の水位が急に上昇するおそれがあります。洪水が発生するまでの時間が短くなるため、注意が必要です。
また、上流部で降った雨にも注意が必要です。

避難行動の種類

避難行動には立退き避難と屋内安全確保があります。
基本的には立退き避難を行い、夜間や災害の差し迫っている時等、立退き避難を行うとかえって危険な場合には屋内安全確保をしましょう。
避難は「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です。

立退き避難



逃げ遅れたら

屋内の安全な場所への避難（屋内安全確保）

気象情報や防災情報をもとに、早めの避難を心がけましょう。避難場所だけでなく、安全な親戚・知人宅も避難先と考えられます。

最低限の避難行動として、建物の 2 階以上に移動して、安全を確保しましょう。

早期の立退き避難が必要な区域

■家屋倒壊等氾濫想定区域

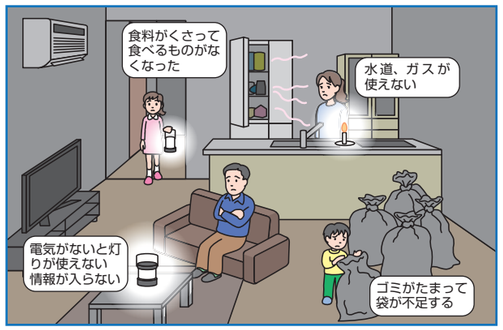
家屋の倒壊をもたらすような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある堤防沿いの地域は早期の立退き避難が必要な区域です。

氾濫流 堤防の決壊や氾濫流による木造家屋の倒壊のおそれがある

河岸侵食 河岸が削られて家屋が崩落するおそれがある

■浸水継続時間の長い区域

浸水継続時間とは浸水の深さが 50cm 以上になってから 50cm を下回るまでの時間を示したものです。
浸水継続時間の長い区域で立退き避難を行わなかった場合、ライフラインが絶たれ避難生活が困難になるおそれがあります。

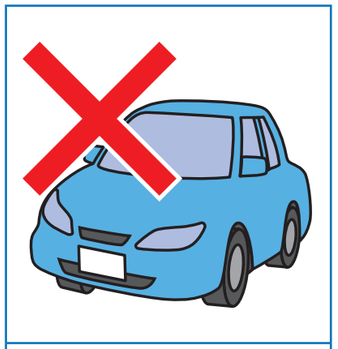


避難をする時の心得を学びましょう

水害時の避難は、実際の浸水が始まる前に行ってください。浸水が始まってからの避難は、濁流に巻き込まれる等の危険が高まります。状況によっては、自宅の2階以上に避難することも大切です。避難する時の心得を学び、気をつけて避難を行いましょう。

動きやすい服装で、必要最小限の荷物で避難しましょう。

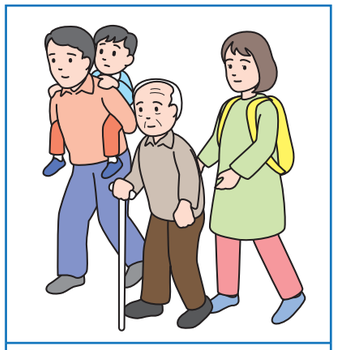
歩きやすい「はき物」をはきましょう。長靴は、水が入ると重くなるのでやめましょう。



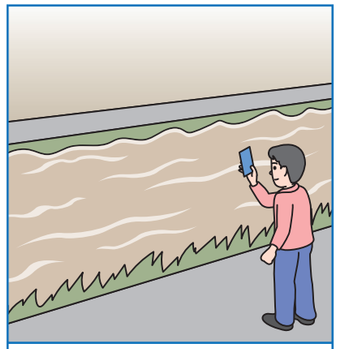
車での避難は控え、徒歩で避難しましょう。車は浸水すると故障し、緊急車両の通行の妨げになる可能性があります。

歩いて避難できる深さは、ひざ下程度です。ただし、流れによっては足をすくわれる危険性があります。

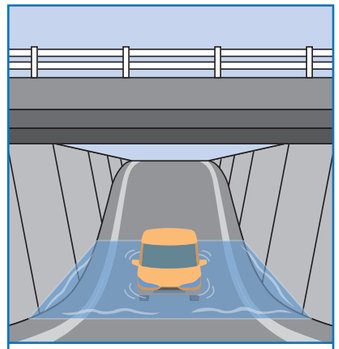
地面が見えにくくなり、マンホールや水路等に落ちてしまう危険性があります。棒を使い、足元に注意して歩きましょう。



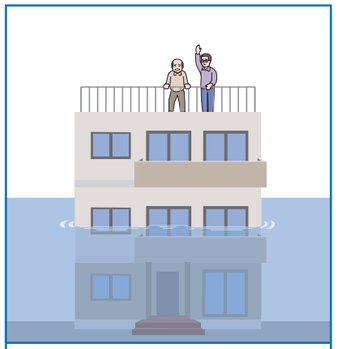
子どもや高齢者の避難を手助けしましょう。（早めの避難が大切です。）



河川の近く等、危険な場所へは近づかないようにしましょう。



町内のアンダーパスは過去の洪水時に浸水したことがあります。違うルートを通りましょう。



もしも逃げ遅れたら、近くの高い建物へ避難し、救助を待ちましょう。

マイ・タイムラインを作りましょう

台風や大雨のような風水害はあらかじめ接近を予測できる災害です。
災害時に取る行動を家族と話し合って決めておきましょう。

あなたの住んでいる場所は…

□洪水浸水想定区域　□災害の予想がない区域（※1）

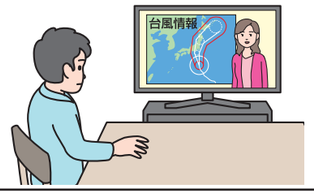
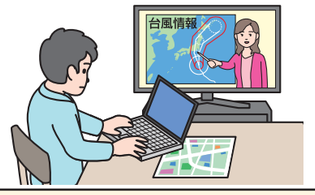
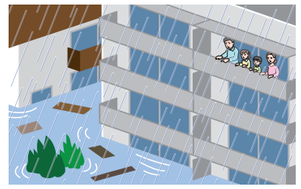
※1 災害の予想がない区域においても、降雨の状況によっては災害が起こる可能性があります。情報収集に努め、自らの判断で避難しましょう。

家族で避難場所を決めましょう

□町の指定避難所（　　）　□自宅の上階
□親戚・知人宅（　　）　□頑丈な建物（　　）

避難のタイミングを決めましょう ※警戒レベル４までに必ず避難しましょう

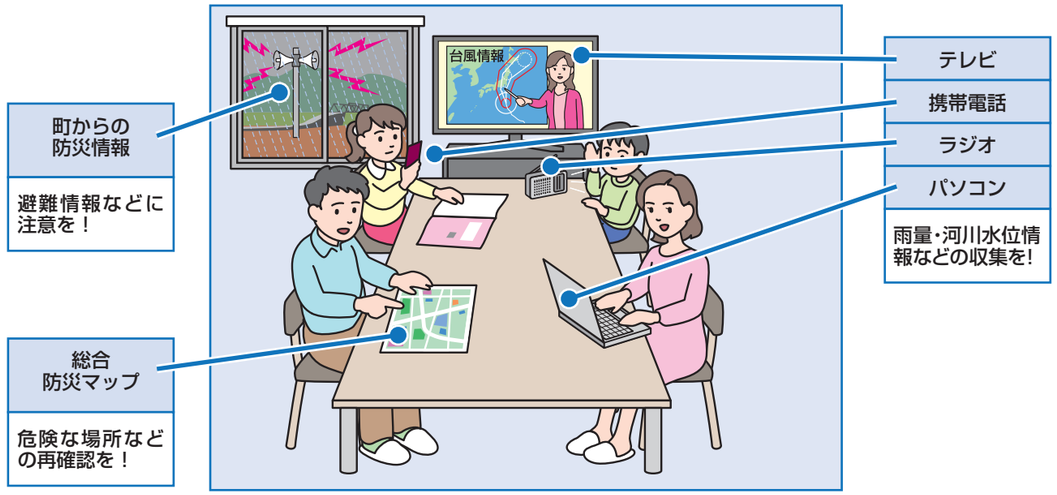
家族や近所で避難に時間がかかる人（高齢の人・障がいのある人・乳幼児等）が
□いる　→　レベル３で避難　□いない　→　レベル４で避難

危険度	低				高
	レベル１	レベル２	レベル３	レベル４	レベル５
警戒レベル					
避難情報等	早期注意情報 気象庁が発表	洪水注意報、大雨注意報 等 気象庁が発表	避難準備・高齢者等避難開始 （高齢者等避難（※2、※3）） 豊郷町が発令	避難勧告・避難指示（緊急） （避難指示（※2、※4）） 豊郷町が発令	災害発生情報 （緊急安全確保（※2、※5）） 豊郷町が発令
防災気象情報			氾濫警戒情報、洪水警報 等	氾濫危険情報、土砂災害警戒情報 等	氾濫発生情報、大雨特別警報 等
住民の皆さんが取るべき行動 ①必要な行動にチェックをつけましょう。 ②その行動を取る人をカッコの中に書き込みましょう。 ③その他に必要な行動があれば、空欄に書き足してください。 例： ☑天気予報を確認する（父） ☑家を点検する（母）	災害への心構えを高めましょう。	自らの避難行動を確認しましょう。	危険な場所から高齢者等は避難しましょう。（※3）	危険な場所から全員避難しましょう。	直ちに安全を確保しましょう。 命の危険がある状況です。
	□天気予報を確認する（　　） □家を点検する（　　） □外にある植木鉢等を家の中にしまう（　　） □非常持出品や備蓄品を確認する（　　） □常備薬を確認する（　　） □避難手段を確認する（　　） □携帯電話を充電する（　　） □家族の行動を確認する（　　） □親戚や近所の人に連絡する（　　） □　（　　） □　（　　） □　（　　）		□テレビやラジオをつけた状態にする（　　） □家族と連絡を取り合う（　　） □避難所の開設状況を確認する（　　） □非常持出品を準備する（　　） □動きやすい服装に着替える（　　） □戸締りをする（　　） □ガスの元栓を閉める（　　） □ブレーカーを落とす（　　） □隣近所に声を掛け合う（　　） □レベル３で避難する（　　） □レベル４で避難する（　　） □　（　　）		□家の上層階へ移動する （　　） □近くの高い建物へ移動する （　　） □ （　　） □ （　　） □ （　　） □ （　　）

※2 カッコ内の内容は「令和元年台風第 19 号等を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループ」（内閣府）による最終とりまとめであり、今後の法改正で避難情報等は当該内容に変更される予定です。
※3 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。
※4 避難指示は現行の避難勧告のタイミングで発令されます。
※5 町が災害のすべての状況を把握できない場合もあることから、必ず発令されるものではありません。

いろいろな情報収集の方法

大雨時は、自ら情報収集する意識が大切です。台風等の接近は数日前から予測することができるので、事前に情報収集することで、災害に対する備えをしましょう。



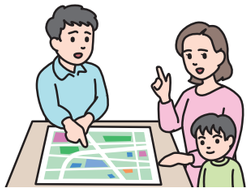
防災情報はインターネットから収集することも可能です。
デマに惑わされず、信頼できる情報を集めましょう。

名　称	アドレス	QRコード
メール配信システム	touroku@toyosato-town.jp	
豊郷町ホームページ	https://www.town.toyosato.shiga.jp/	
しらしが（しらせる滋賀情報サービス）	https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/11688.html	
滋賀県土木防災情報システム	https://shiga-bousai.jp/	
滋賀県防災ポータル	https://dis-shiga.jp/	
川の防災情報	https://www.river.go.jp/	
気象庁	https://www.jma.go.jp/	
Yahoo!防災速報アプリ	https://emg.yahoo.co.jp/	

マップの見方

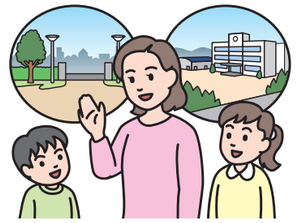
次のページからの洪水ハザードマップを参考に、いざという時の行動を家族でよく話し合いましょう。

1 自宅の位置を確認しましょう。



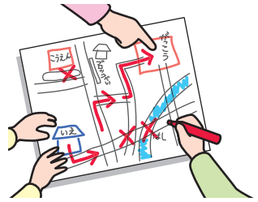
洪水ハザードマップで、浸水の状況を確認しましょう。ご自宅のある場所が何色に塗られているか確認しましょう。

2 自宅付近の避難所を確認しましょう。



自宅に一番近い避難所を地図で確認しましょう。

3 危険な場所を避けて、避難経路を設定しましょう。



自宅から避難所までの避難経路を考えましょう。
川の近くや細い道を通るルートは避けましょう。

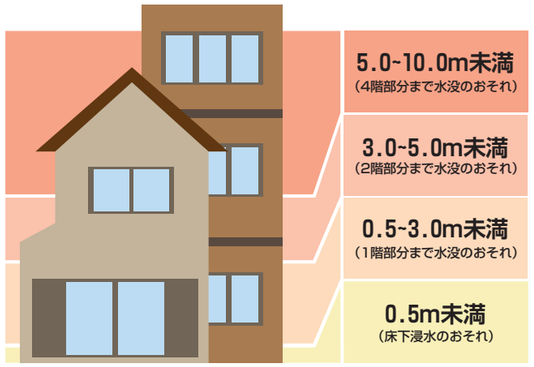
4 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いて、避難先までの移動時間を計りましょう。
避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

凡例

以下のような地域にお住まいの方は雨がひどくなる前に**避難所に避難しましょう。**もし逃げ遅れてしまった場合には建物の2階以上に避難しましょう。また、災害が想定されていない区域においても、降雨の状況によっては災害が起きる可能性があります。自らの判断で避難することが大切です。

洪水



家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋の倒壊もたらすような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早期の立退き避難が必要な区域です。

浸水継続時間の長い区域

浸水継続時間とは、浸水の深さが50cm以上になってから、50cmを下回るまでの時間を示したものです。浸水継続時間が24時間以上の区域を網かけ表示しています。浸水継続時間の長い区域で立退き避難を行わなかった場合、ライフラインが絶たれ避難生活が困難になるおそれがあるため、早めに避難しましょう。